

# 2020年度版CROWN Jr. 検討の観点と内容の特色

項目	検討の観点	内容の特色
1 内容の 取扱い	教育基本法を踏まえた教科書になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体の構成は、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力を育成できるように配慮されている。</li> <li>●取り上げる題材は、身の回りの生活に関する事柄のほか、日本の伝統文化および他国の文化、動物や自然、将来の職業など、幅広く児童の知的欲求に合致するものが選択され、伝統や文化の尊重、国際的な視野、命や自然を大切にす心、主体的に社会に参画する態度などを育成できるように配慮されている。</li> <li>●言語活動においては、それぞれの力に応じて取り組むことができ、かつ個の考えや気持ちを尊重できる課題を設定しており、個々の創造性を発揮し自律的に学ぶことができるように工夫されている。</li> </ul>
	学習指導要領に対応した工夫、配慮はどのようになされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導要領で求められる「外国語」のねらい、内容、時間数への対応が適切であるとともに、「外国語活動」の内容からの接続が円滑に図られるように配慮しているなど、教育課程上の改訂に対応している。</li> <li>●基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得すること、それらの知識や技能を実生活の中で活用できる力を段階的に育成できるような構成になっている。またその中で、多様な題材を提示し、言語活動で思考力・判断力・表現力を養えるような配慮がされている。</li> <li>●学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどがわかりやすく提示されているとともに、学ぶプロセスを踏まえた構成になっており、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮されている。</li> </ul>
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けての配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語活動は、主体的な学びがおこなわれるように児童それぞれの考えや気持ちを重視し、ペアワークやグループワークが多く配置され、対話的な学びがおこりやすいよう配慮されている。小単元の終わりや大単元のまとめにあたる活動は、既出の事項を駆使して思考力、判断力、表現力を働かせて深い学びにつながる課題が設定されている。</li> </ul>
	教科の目標達成に必要な内容が適切に盛り込まれているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2学年を通して、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことなどの「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を確実に身に付けられるように、内容が選択・配列されている。</li> <li>●言語活動においては目的や場面、状況などが明確で、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら活動に取り組めるように工夫されている。児童の興味を喚起させる場面設定や話題、他者と関わりながら進めていく活動が豊富に配置され、「他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」が育成できるように工夫されている。</li> <li>●言語や文化に関する題材や資料が適切に配置され、外国語の学習を通じて、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」られるように配慮されている。</li> </ul>
2 内容の 程度	児童の発達段階に適合した内容が選択されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高学年の発達段階や特性を踏まえた題材・言語活動・付録の資料などが適切に配置されている。</li> </ul>
	言語材料の程度は適当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文構造は、基本的なものが選択・提示され、外国語活動や中学校との接続を十分に踏まえ、大単元の最終課題に取り組めるように配慮されている。</li> <li>●語彙については、児童の言語活動に必要な観点から、表現のための語彙（発信語彙）、理解のための語彙（受容語彙）が適切に選択されている。語彙の大部分はイラストとともに綴りが提示されており、児童が表現活動をする際の助けとなっている。</li> <li>●音声に関しては、基本的項目が取り上げられており、Chantを中心に継続して配置されている。また、日本語との違いや音と文字の関係に気づきを促す工夫が随所でなされている。</li> </ul>
	言語活動の程度は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る練習活動と、思考・判断・表現を重視した言語活動が、バランスよく選択されている。活動の分量やタスクの内容も単元や学年の進行を踏まえて積み上げられている。</li> </ul>
	題材内容の程度は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●題材内容は児童の知的発達段階に十分な配慮がされており、適切である。学校生活や家庭生活などの児童に身近な内容から、日本の伝統文化・他国の文化、自然、将来の職業など、幅広い題材を取り上げ、児童の興味・関心に沿った内容が選択されている。</li> </ul>
	発展的な学習内容の扱いは適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文構造の発展的な学習内容であることがわかるよう明示されており、意欲的な児童が取り組めるようになっている。</li> </ul>

項目	検討の観点	内容の特色
3 組織・ 配列	内容の組織・配列は学習指導上の効果が上がるように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2学年で6つの言語活動の目標を設定し、それらに向けて学びを深めるために6つの大単元を配置している。大単元は、学習指導要領の3つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成が図れるよう、ねらいの異なる小単元を、段階を追って配置する構成としている。新学習指導要領が求めるコミュニケーション力の基礎、学びに向かう力の育成に適した構成となっている。</li> </ul>
	言語材料の組織・配列は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文及び文構造や語彙は、基本的には単純なものからやや複雑なものへゆるやかに傾斜配置され、かつ大単元の言語活動の目標に合わせて選択・配列されている。</li> <li>●既出のものを踏まえて新出のものを導入する流れが随所に見られ、ことばへの気づきを促す工夫がなされている。</li> <li>●音声の項目については、その基礎的なものをSound ChantやEnjoy Readingなどで段階を追って扱っている。同一の小単元内のSound ChantとEnjoy Readingは扱う項目を連動させ、時期をずらしながら経験させることで、学習効果が上がる工夫をしている。</li> <li>●文字については、第5学年の最初の大単元でアルファベットの形、名称読み、音読みを一通り経験させる。その後、「読むこと」については、基礎的なものをSound ChantやEnjoy Readingで系統的に扱い、「書くこと」については言語活動に関連させながら自分の考えや気持ちを伝える形で文字を経験させるように工夫している。</li> </ul>
	言語活動の組織・配列は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを重視したものと思考力、判断力、表現力の育成を重視したものとがバランスよく配分され、前者が後者と関連を持ちながらつながる配列になっている。</li> <li>●Listen &amp; Talk→Enjoy Listening→Talk to Friendsの流れの中で、言語活動を通して段階的にターゲット表現の習熟が図られる配列になっている。</li> <li>●Story、「実世界の英語」が適宜配置され、一定量の英語を聞く経験を通して、推測する力やあいまいさに耐える力を養う工夫がされている。</li> <li>●Panoramaは、一枚絵の中にターゲット表現や語彙などにつながる人物やものなどが描かれている。それらを話題にしなが、Small Talkをはじめ、さまざまな言語活動が無理なく組める構成になっている。</li> <li>●文字の音を意識させるSound Chantのあとに、Enjoy Readingが配置され、文字の読み方に意識を向けながら短いストーリーの内容を理解させる言語活動が組める。</li> <li>●STEPの各Lessonのまとめは「書くこと」を含む言語活動が設定され、自分の考えや気持ちを書き写して表現できる。</li> </ul>
	題材の組織配列は適切に配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●題材は、第5学年では、「自分のこと」「身の回りのこと」「友だちや先生などの身近な人のこと」「ふだんの生活のこと」「日本のこと」を扱い、第6学年では、「自分たちのこと」から始まり、「過去のこと」「将来のこと」「世界のこと」を扱っている。各学年とも、題材内容の配列に広がりや深まりを持たせている。</li> </ul>
言語の使用場面、言語の動きは適切に配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Panoramaを中心に家庭生活、学校生活、地域の行事など児童の身近な暮らしに係る場面を扱い、特長な表現がよく使われる買い物、食事、道案内などはTryを中心に扱っており、適切に配置されている。</li> <li>●学習指導要領に示された言語の動きについては、多様な場面設定の言語活動において音声や文字で経験することができる。</li> <li>●「コミュニケーションを円滑にする」方略についてのコラムがあり、児童が言語活動をする際の助けとなっている。</li> </ul>	
付録は効果的に配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーション活動で利用できる語彙や表現のリスト、言語や文化についての背景知識のコラム、ことばを学んだりコミュニケーションをとったりする際の方略に関する資料など、活用度、資料性の高いものが、本編と関連を持ちながら、巻頭、本編の合間、巻末に豊富に配置されている。それらは、授業や自学自習の場面で多様な使い方ができるようになっている。</li> <li>●巻末にはカードや地図など切り取りができる板紙の付録がついており、活動を豊かにする工夫がされている。</li> </ul>	

## 2020年度版CROWN Jr. 検討の観点と内容の特色

項目	検討の観点	内容の特色
4 分量	全体の分量	●全体として、分量は学習・指導上で無理がないように精選されている。指導時数は、第5学年65（70）時間、第6学年64（70）時間で設定されているが、単元によって弾力的に運用できる構成になっているので、学校や地域の実態に応じて、時間数を調整できる。
	言語材料の分量	●学習指導要領で求められている小学校段階で十分な分量の語について、音声と文字で触れられるようになっている。また、連語、表現についても活動で必要となる十分な量が確保され、音声で触れることができ、必要に応じて文字でも触れられるようになっている。 ●学習指導要領で求められている文及び文構造については、必要十分なものが網羅され、それらが繰り返し提示されることで、学習者の理解、習熟を促している。
	活動の量	●診断的な活動、練習活動、言語活動など異なるねらいの活動について、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を確実に身につけられるに十分な量が、それぞれ適切な配分で配置されている。
5 教育課程の編成や授業を組み立てる上での工夫。	他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連について配慮されているか。	●他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を意識した題材が取り上げられ、学習効果上がるように工夫されている。また、関連する付録の資料も適切に配置され、深い学びが実現できるよう配慮されている。教科書に登場人物として学習者と同学年の児童（男女各3名）を登場させており、学習者は教科書の登場人物とともに成長していけるように配慮されている。
	小学校外国語活動を踏まえた内容になっているか。	●第5学年の冒頭で、小学校外国語活動で触れてきた単語や表現の主なものに触れながら、コミュニケーションをすることの楽しさ、大切さを確認できるように配慮されている。 ●大単元は、言語活動を通して児童それぞれがそれまでの学習で育んできた力でできることを確認することからはじまっており（HOP）、児童が外国語活動との接続を意識できる構成になっている。 ●表現・語彙は小学校外国語活動で慣れ親しんだものを繰り返し言語活動の中で使えるよう配慮されている。 ●英語の音声への慣れ親しみを踏まえ、音から文字へ段階的に学べる構成になっている。
	短時間学習（モジュール学習）への対応は適切か。	●Lesson（STEP）の各Partは2時間の授業を基本としているが、Listen & Talk、Storyまたは「実世界の英語」、Chantの性格の異なる3つのコーナーは独立させることも可能なので、それぞれが短時間の授業に振り替えやすく、1時間+短時間授業の教育課程にも充分対応できる構成になっている。 ●Presentation（JUMP）は、学習の手順におけるまとまりがわかりやすく、それぞれが短時間の授業に振り替えやすいものとなっている。また、JUMPは、STEPの積み重ねを踏まえた活動となっているので、JUMPを進めながら、短時間学習をSTEPのふりかえりにあてるなど、進度や児童の実態に応じて、時間配分ができる。
	中学校につながる内容になっているか。	●学びの見通しを立てる（HOP）→ 基礎的・基本的な知識・技能を習得する（STEP）→ 実際の場面で表現【活用】する（JUMP）の大単元の構成が、中学校教科書と構造的に同じで、学びのプロセスが一致しており、中学校への移行がスムーズにできる。 ●中学校の初期に多用される書体も用いており、中学校で本格化する「読む」「書く」活動に無理なく移行できる。 ●中学校で習得すべき文・文構造や表現の基本的なものや、豊富な語句に触れることができ、中学校での言語活動が豊かに展開できる。
	担任が指導しやすくなっているか。	●小単元ごとにねらいが示され、何を目標にするかがわかりやすい。また、各小単元の構成が一定で、学習の流れがわかりやすい。活動の最中にはどこに取り組んでいるのか教師にとっても児童にとっても明確である。 ●Panorama、Word Bank、Words & Phrasesなど、随所に英語が付されたイラストが提示され、英語での表現の助けとなっている。

項目	検討の観点	内容の特色
6 デザイン・レイアウト・活字・さし絵・写真・図版等	ユニバーサルデザインへの取り組みはされているか。	●専門家の校閲により、能力そして性別などの違いに関係なく、すべての人が利用しやすいデザインになっている。デザイン面だけでなく、教科書の本文および活動の内容についても、学習上の支障がないよう配慮されている。
	紙面の構成は学習に有効なものになっているか。	●大判（A4判）であり、イラストや写真が大きく、わかりやすいと同時に迫力があり、児童の学習意欲を喚起できるものとなっている。 ●「教科書の使い方」では、教科書の紙面構成や記号についていねいに説明されていて、児童が使いやすいものになっている。
	色覚特性に配慮した紙面構成になっているか。	●紙面全体の構成やデザイン、イラスト・地図などの図版、および記号などの配色や形・大きさに工夫がなされ、カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面になっている。
	活字の大きさや書体、行間は適切か。	●文字の大きさは読むのに適切なものになっており、読みやすい。書体は読みやすいものが使われており、特に書く活動のモデルとなる英語については手書き文字の書体が使われ、学習がしやすくなっている。
7 造本・印刷	表記、表現は児童にとって適切か。	●漢字は原則的に当該学年の前までの配当漢字を使用し、当該学年以上の漢字にはすべてふりがなをつけ、読みの抵抗を軽減できるよう配慮されている。
	さし絵は適切な内容で、学習の補助になっているか。	●場面設定が明確になるようさし絵が適切に配置されている。また、随所に活動の内容がさし絵で示され、児童の活動理解の助けになっている。登場人物が生き生きと描かれており、児童の学習意欲を喚起させる。
	用紙・インキは環境に配慮したのものになっているか。	●環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい用紙と植物油インキを使用している。
	印刷・製本は適切か。	●印刷はとても鮮明で、カラーの写真・さし絵も含め、きわめて美しく仕上げられている。紙も白色度の高すぎないものが使用されており、見やすい。製本は堅牢であり、長期間の使用に耐えられるものとなっている。

